

SLと笑顔に会える富士連区



富士連区地域づくり協議会だより
令和2年10月1日 第25号

富士連区地域づくり協議会(富士公民館内 TEL.24-5125)
ホームページ 富士連区地域づくり協議会 [検索](#)
Facebook を開設しています



富士連区年間行事の取り扱いについて

富士連区地域づくり協議会・富士連区町会長会・富士公民館

仲秋の候、皆様におかれましては益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

平素は、連区行事に格別のご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

令和2年度富士連区各団体は、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、さまざまな会議、行事等を見合わせて参りましたが、下記のように判断しましたのでご承知下さいます様お願い申し上げます。

中
止

- ★ ふれあい夏まつり 8月21日22日
- ★ 連区敬老会(該当者への記念品配布のみ) 9月21日
- ★ 連区大運動会 10月4日
- ★ 防犯・交通安全総決起大会 10月25日
- ★ ふれあいの集い 10月21日
- ★ 連区防災訓練 10月25日
- ★ 児童育成協議会スポーツ大会 11月26日
- ★ 富士チャレンジ大会 11月28日
- ★ 生きがいクラブ講座及び研修旅行 6月~10月

【★ふれあいカフェサロン・公民館まつりは今後の状況で判断します。】

公民館事業は、開催時はソーシャルディスタンス(社会的距離)を保つ上の人数制限もあり、今後の感染拡大状況により講座・教室・大会を中止する事もありますのでご了承下さい。

富士連区地域づくり協議会

防災対策事業としての テント購入について



富士連区地域づくり協議会では、令和2年度の提案事業として、各種行事に使用するテントを10張、購入いたしました。これにより、防災訓練や避難所設営、小学校の運動会など各種行事の時に使用できます。近年の猛暑対策としても、ワンタッチで伸縮自在の取扱い簡便なテントの整備は非常に役立つものと思われまます。

テントは富士小学校の使用計画に合わせ、本体と付属器材が8月25日~27日に納入されました。早速27日には、安全安心部会員や自主防災会役員有志による演習も兼ねて、先生方と一緒に組立実習を行いました。組立作業はやってみると少々風が強かったこともあり、うたい文句通りには簡単ではないことを実感させられました。

今年度の安全安心部会の活動

今年度の富士連区防災訓練は、新型コロナ感染拡大防止対策上とりやめとなりました。安全安心部会では自主防災会役員との合同会議を開き、今後の防災訓練の在り方や平常時の防災体制について検討を重ねています。

その一環として10月25日には、防災関係者を中心に、市危機管理課から出前講座及び一宮市消防本部から防火・防災訓練の説明を受けることにしました。





「富士っ子のいつもと違う夏」

…麦わら帽子で熱中症対策…



今年の登下校の風景がいつもと違うことに皆様はお気づきでしょうか？富士っ子たちは黄色い帽子の代わりに麦わら帽子をかぶっています。

新型コロナ感染拡大の影響で、残念ながら夏休みは2週間だけになってしまいました。いつもなら夏の一番暑い時期を涼しい家庭で過ごしていた子どもたちも、授業時間確保のため今年は炎天下の中を登下校することになりました。猛暑の中、登下校する子どもたちのリスクを減らそうと校長先生を始め富士小学校の先生方が検討した結果、黄色い帽子に比べ、つばが広く通気性の良い麦わら帽子を児童全員に提供しようということになりました。つばが広いので日差しよけやソーシャルディスタンスも確保でき、通気性も良いので蒸れにくいと子どもたちにも好評のようです。

麦わら帽子の子どもたちの様子は少し懐かしさもあり、いつもと違う特別な夏になりました。



1000年の歴史を誇る

富士連区を流れる 大江川



1001年、尾張国主である、大江匡衡(おおえまさひら)が築いた用水。

大江用水の名前は大江匡衡から名付けられています。江南市宮田町で宮田用水から分流西進し、一宮市浅井町尾関で、奥村用水を分流し南下。一宮市街、稲沢市街を通過し、あま市で蟹江川に合流した後、また日光川に合流し名古屋港藤前干潟に流れ込みます。

開通後、木曾川からの用水取水の不安定に長年悩まされ続けましたが、昭和38年に犬山頭首工の完成により安定取水が可能になりました。しかし経済成長に伴い生活廃水等流入により著しく汚染されるようになり、昭和44年より用水排水の分離工事が行われ、農業用水の確保と稲作の安定が図られました。現在の川は2階建ての構造で、下部は用水・上部は排水の構造となっておりますが、現在は用水の利用は有りません。

70年前は、市内にはプールがなく絶好な水泳場となり、また夜には蛍も飛び交い、釣り糸を垂れ釣り場としての遊び場でもありました。繊維産業が栄えた頃、両岸には染色工場も多く存在し、染色後の織物糸の干し場として利用されていました。

また須ヶ崎橋下流には電車の鉄橋が架かり、名鉄東一宮線《東一宮⇄岩倉》として電車が往来していました。現在でも橋台跡の遺構が残されています。そして連区内には、花岡町駅・印田駅が存在しました。

一宮市中心部を流れる大江川沿いには、340本余りの桜が植えられ緑道が整備されて市民の憩いの場として、健康づくりに多いに貢献しています。

連区内に架かる橋は、デザインも工夫され景観にも大きく寄与された橋となっております。須ヶ崎橋・天道橋は代表的な橋で、上流より神明渡橋(しめどはし)・天道橋・日吉橋・無名橋・花祇橋・石野橋・花田橋・花岡橋・北須ヶ崎橋・須ヶ崎橋とわずか1.3km程の距離に10橋架っております。



「春」桜花爛漫



「夏」蝉しぐれ



「秋」桜樹の紅葉



「冬」降雪風景